# 朝河貫一によるイェール大学図書館及び米国議会図書館のための日本資料の収集

松谷有美子（清泉女子大学附属図書館）
matsutani@2013.jukuin.keio.ac.jp

## 1. 研究の背景と目的

朝河貫一は，1873 年に福島県に生まれた。1895 年に単身アメリカに留学して以降，アメリカを拠点に活動し，1948 年に同国において没した。その功績は，「Professor of History, Curator, Peace Advocate」という 3 つの言葉で特徴づけられている。

朝河は，1907 年からイェール大学で教え始めるが，その直前の第 1 回日本帰国(1906.2-1907.8)においてイェール大学図書館と米国議会図書館のために日本資料の収集を行った。両図書館は，アメリカにおいて日本資料を備えた図書館の草分けとなった図書館である [1)]。

朝河の日本資料の収集は，両図書館にとって初めての計画的な日本資料の収集であると言われてきた [2),3)]。しかし，実際に朝河の集めた日本資料の評価は，文献調査に止まっており，近年に目録が刊行されても収集資料の再現に至っていない。

本研究は，朝河の第 1 回日本帰国の際の日本資料の収集の背景や結果を知るために，書簡の調査によって①経緯を明らかにし，近年作成された目録の内容分析と現物調査によって②両図書館のコレクションの特徴を明らかにし，③朝河の目指したコレクションの意義を考察する。

## 2. 調査方法

### 2.1 書簡調査

『朝河貫一書簡集』[4)]，「朝河貫一資料」（福島県立図書館所蔵），「Kan' ichi Asakawa papers (MS40)」，「Librarian, Yale University records (RU120)」，「Arthur Twining Hadley, president of Yale University, records (RU25)」（イェール大学図書館 Manuscripts and Archives 所蔵）の書簡を調査し，金子英生 [2)]，阿部善雄 [5)]，和田敦彦 [1)]，Andrew Y. Kuroda[3)]らの文献で補足した。

### 2.2 目録調査

「イェール大学蔵・日本文書コレクション目録」（1990）[6)]と『米国議会図書館蔵日本古典籍目録』（2003）[7)]を調査対象とした。両目録の収載範囲の制約により，朝河の収集資料のすべてではないが，それぞれから朝河の収集資料を抽出した。

タイトル数と冊数，写本と刊本の別，写本と刊本の年，分類を分析項目に設定した。分類は，米国議会図書館の目録の分類が主として『内閣文庫国書分類目録』に依拠していたので，これに準ずることとした。

1907-1908 年のイェール大学図書館長年次報告 [8)]と 1907 年の米国議会図書館長年次報告 [9)]を収集内容の比較に用いた。

### 2.3 現物調査

2012 年 8 月 6-10 日に米国議会図書館 Asian Reading Room（ワシントン D.C.）を，同年 8 月 13-17 日にイェール大学 Beinecke Rare Book and Manuscript Library と East Asia Library（コネティカット州ニューヘイヴン）を訪問し，書簡の調査と並行して現物を調査した。

## 3. 調査結果

### 3.1 日本資料の収集活動（1906.2-1907.8）

#### 3.1.1 収集の経緯

書簡の調査によって，朝河がアメリカに日本図書館を設置する構想を持ち，自ら有識者に収集を提案し，結果的にイェール大学図書館と米国議会図書館の賛同を得て収集が実現したことがわかった。大学院生時代のイェール大学図書館における日本資料整理のアルバイト経験で日本資料の質や量をある程度把握していたこと，構想を実現するために働きかけるべき人物を朝河が知っていたこと，予算の見積りや目録などを事前に調査していたことが成功の要因であったと考えられる。

#### 3.1.2 委託の内容と朝河の収集方針

20 世紀初頭のイェール大学は，コレクション構築方針を書いたものはなく，コレクションの内容も入手できる方法に依っていた[10]。ほとんどが直接寄贈されたか，寄付を募って入手していたので，朝河の日本資料は，大学の資金の少なくとも一部で購入された数少ないコレクションの１つであったと言える。

米国議会図書館の日本資料も，朝河以前は専ら交換か寄贈であった[3]。米国議会図書館からは，将来かなりの規模になると思われる日本部門の基盤となるもの，短命な資料や二次資料は必要ない，日本の歴史と制度を知る上で最も中心となる資料，日本固有の文献の中でも，より重要な作品，購入予算は 5,000 ドルまでとし，製本代を含む，朝河への報酬は総支出の 10%以上とするなどの要望があった。

朝河の収集方針は，第１に図書館に単なる稀少本や珍本を集めるのではなく，日本文学，歴史，制度を学ぶ学生にとって良い「作用をもたらす」コレクションを備え付けることを収集の目的とした。第２に１つのコピーしか存在しないものやほかに替えがないものは，どんなに重要な著作や文書であっても，日本から持ち出さないという貴重書の選定基準があった[9]。

### 3.2 集められた資料

#### 3.2.1 イェール大学図書館のコレクションの特徴

イェール大学図書館長年次報告では，8,120 冊（3,578 タイトル）であったのに対し，今回の目録調査では，1,091 冊（685 タイトル）となった。

写本と刊本のタイトル数は，写本が約 97%と全体に占める割合が高く，図書館長年次報告において，大部分は写本であると言われているとおりの結果となった。

年次は，不明を除いて近世の江戸時代後期から江戸時代末期にかけての資料が多いことがわかった。図書館長年次報告で言及されたように，最近の事情に関する資料よりも日本の文明化の歴史を伝える一次資料が大半を占めていると考えられる。

分類別のタイトル数は，不明を除くと歴史と政治・法制・附故実が全体の６割強を占める結果となった（第１表）。図書館長年次報告において，“日本の制度の発展に関する資料が特に強みである”と書かれていたことの裏づけになると考えられる。分類の詳細は，歴史では主に公家や武家，幕府の記録や歴史，伝記，日記といったもの，政治・法制・附故実では主に各種の法度や評定所の規則，有職故実，武家故実などが中心である。地理はほとんどが地誌で，諸々の風土記を含んでいる。文学はほぼ随筆が占めるが，現在の一般的なエッセイに近い随筆とは異

なり，江戸時代の随筆は一種の考証のようなものであったため，歴史資料を補完する意味合いが強いように思われる。武学・武術の資料は大部分が兵法で，厳密には政治・法制・附故実に含まれるような武家社会の仕組みを表す資料の1つではないかと思われる。

第1表　イェール大学図書館の分類別タイトル数[1]

| | 分類 | タイトル数 | 全体に占める割合（%） |
|---|---|---|---|
| 1 | 歴史 | 182 | 34.5 |
| 2 | 政治・法制・附故実 | 149 | 28.2 |
| 3 | 地理 | 38 | 7.2 |
| 4 | 文学 | 35 | 6.6 |
| 5 | 武学・武術 | 33 | 6.3 |
| 6 | 産業 | 19 | 3.6 |
| 7 | 仏教 | 17 | 3.2 |
| 8 | 神祇 | 12 | 2.3 |
| 9 | 経済 | 11 | 2.1 |
| 9 | 諸芸 | 11 | 2.1 |
| 11 | 教育 | 9 | 1.7 |
| 12 | 漢籍 | 4 | 0.8 |
| 13 | 総記 | 2 | 0.4 |
| 13 | 芸術 | 2 | 0.4 |
| 15 | 言語 | 1 | 0.2 |
| 15 | 音楽・演劇 | 1 | 0.2 |
| 15 | 理学 | 1 | 0.2 |
| 15 | 医学 | 1 | 0.2 |
| 19 | 準漢籍 | 0 | 0.0 |
| | 合計 | 528 | 100.0 |

注1　分類が不明の157タイトルを除く

### 3.2.2　米国議会図書館のコレクションの特徴

米国議会図書館長年次報告では，洋装本9,072冊（推定3,160タイトル）であったが，今回調査した目録では，1,008冊（645タイトル）となった。

写本と刊本のタイトル数は，図書館長年次報告では収集資料の多くが写本であるということであったが，目録では刊本が約46%あり，約54%と写本の方が多いが，半分近い割合である。

年次は，不明を除外すると写本と刊本ともに概ね近世の江戸時代前期，中期，後期が中心だが，写本に関しては各時代にわたって資料が集められている様子がうかがえる。

分類別のタイトル数は，仏教が全体の5割を占め，圧倒的に多いことがわかった（第2表）。仏教のほかには地理が次に多く，図書館長年次報告に仏教と地理学が特筆すべき資料であるとされていることを裏づける結果となった。しかし，タイトル数としては，地理に仏教と並ぶ量があるわけではない。イェール大学図書館にも同じく日本地誌を中心とした地理があったが，イェール大学図書館が風土記を中心にした地誌であったのに対し，米国議会図書館の地理には風土記は見当たらない。その代り，挿絵のある名所図会の各種が充実しているなど，イェール大学図書館よりも通俗的な資料を含んでいると言える。

仏教資料は，研究に欠かせない資料，その筋の必読書，初学者向けにわかりやすく解説したものなどに分けることができる。

第2表　米国議会図書館の分類別タイトル数

| | 分類 | タイトル数 | 全体に占める割合（%） |
|---|---|---|---|
| 1 | 仏教 | 333 | 51.6 |
| 2 | 地理 | 55 | 8.5 |
| 3 | 歴史 | 49 | 7.6 |
| 4 | 音楽・演劇 | 43 | 6.7 |
| 5 | 武学・武術 | 33 | 5.1 |
| 6 | 政治・法制・附故実 | 27 | 4.2 |
| 7 | 総記 | 18 | 2.8 |
| 8 | 神祇 | 17 | 2.6 |
| 9 | 諸芸 | 16 | 2.5 |
| 10 | 文学 | 14 | 2.2 |
| 10 | 漢籍 | 14 | 2.2 |
| 12 | 教育 | 6 | 0.9 |
| 12 | 産業 | 6 | 0.9 |
| 14 | 理学 | 5 | 0.8 |
| 14 | 芸術 | 5 | 0.8 |
| 16 | 医学 | 2 | 0.3 |
| 17 | 言語 | 1 | 0.2 |
| 17 | 準漢籍 | 1 | 0.2 |
| 19 | 経済 | 0 | 0.0 |
| | 合計 | 645 | 100.0 |

### 3.2.3　イェール大学図書館と米国議会図書館のコレクションの比較

両図書館に重複する資料が，28タイトルあり，うち16タイトルが歴史に分類される資料であった。歴史で最も多いのは史料であるが，これ

らはすべて中世から近世の日記であった。その時代を代表する人物や重要な地位にいた人物の日記であり，政治，文化，宗教などを知るのに欠かせない史料であると言える。

両図書館に共通して集めているのは，日本史の歴史資料である。それも単なる歴史資料ではなく，行事や習慣，文化，風俗，政治などに関わる原典を収集している。著者や内容の対象となった人物は，武家や公家，宗教関係の知識人で，庶民の書いたものは集められていない。全体的に朝河の関心が，政治史，文化史にあったと思われる。

### 3.3　装丁にみる朝河の方針と収集過程の痕跡

イェール大学図書館の資料は，蔵書票によって収蔵年を，米国議会図書館の資料は，受入印によって収蔵年月日を確認することができた。

和装本のほとんどを洋装本にしていることから使うことを前提として利用を考えつつ，折本や巻物は洋装にしていないところに，資料の価値を尊重し，配慮した様子がうかがえる。

資料によっては，朝河による和文や英文の書入れが残された資料があり，入手経緯がわかる情報源として貴重であると言える。

## 4.　まとめ

調査により，朝河の積極的な働きかけによって両図書館の日本コレクションが実現したことがわかった。内容や装丁からは，貴重書コレクションを作ろうとしたのではなく，朝河の目で資料を選定した様子がうかがえ，要望に沿いつつ，朝河の収集方針を一貫させたと言える。

朝河の収集は，日本を理解するための一次資料のコレクションであり，朝河は，寄贈ではない選択収集によってアメリカにまさに「日本コレクション」と言うべきものをもたらし，利用できる環境を整えるため尽力したことが明らかとなった。


## 謝辞

本研究は，2012 年度三田図書館・情報学会の研究助成を受けて実施したものです。


## 引用文献


1) 和田敦彦. 書物の日米関係: リテラシー史に向けて. 新曜社, 2007, 406 p.

2) 金子英生. “朝河貫一と図書館の絆.”朝河貫一の世界: 不滅の歴史家偉大なるパイオニア. 朝河貫一研究会編.早稲田大学出版部, 1993,p. 225-235.

3) Kuroda, Andrew Y.. “A history of the Japanese collection in the Library of Congress1874-1941.”図書館資料論集: 仙田正雄教授古稀記念. 仙田正雄教授古稀記念会編. 仙田正雄教授古稀記念会. 1970, p. 281-327.

4) 朝河貫一書簡編集委員会編. 朝河貫一書簡集. 早稲田大学出版部, 1990, 866 p.

5) 阿部善雄. 最後の「日本人」: 朝河貫一の生涯. 岩波書店, 1983, 344 p.

6) 国文学研究資料館文献資料部. イェール大学蔵・日本文書コレクション目録. 調査研究報告. 1990, 第 11 号, p. 31-93.

7) 米国議会図書館蔵日本古典籍目録刊行会編. 米国議会図書館蔵日本古典籍目録. 八木書店, 2003, 562 p.

8) Yale University Library. Bulletin of Yale University: Report of the Librarian., Yale University, 1907-1908, 43 p.

9) Library of Congress. Report of the Librarian of Congress and Report of the Superintendent of the Library Building and Grounds for the fiscal year ending June 30 1907., G. P. O., 1907, 167 p.

10) O’Connor, Thomas F.. Collection development in the Yale University Library, 1865-1931. The journal of library history. 1987, vol.22 no.2, p. 164-189.